

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価に関する報告書
(平成 28 年度事業実績)

平成 29 年 8 月
茨城町教育委員会

目 次

| | | |
|-------|------------------------------------|-----|
| I | 教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要 | |
| 1 | 経緯 | 1 |
| 2 | 目的 | 1 |
| 3 | 対象 | 2 |
| 4 | 点検及び評価の方法 | 2 |
| 5 | 茨城町教育委員会評価委員会委員 | 3 |
| 6 | 評価委員会実施日 | 3 |
| II | 茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果(平成 28 年度事業) | 4-5 |
| III | 教育に関する事務事業の点検・評価シート | |
| No.1 | 小中学生ヘルメット購入補助事業 | 6 |
| No.2 | 児童・生徒防犯対策事業 | 7 |
| No.3 | 道徳教育推進事業 | 8 |
| No.4 | 読書普及推進業 | 9 |
| No.5 | 語学指導事業 | 10 |
| No.6 | 教育支援センター事業 | 11 |
| No.7 | 学習指導支援講師配置事業 | 12 |
| No.8 | 特別支援教育支援員配置事業 | 13 |
| No.9 | 中学生自然体験教室事業 | 14 |
| No.10 | 農業体験事業 | 15 |
| No.11 | 放課後スクールサポート事業 | 16 |
| No.12 | スクールバス運行事業(青葉小) | 17 |
| No.13 | スクールバス運行事業(青葉中) | 18 |
| No.14 | 青少年育成事業 | 19 |
| No.15 | 放課後子ども教室推進事業 | 20 |
| No.16 | 町民教養講座開設事業 | 21 |
| No.17 | 長生大学運営事業 | 22 |
| No.18 | 人づくり推進事業 | 23 |
| No.19 | 茨城町子どもフェスティバル | 24 |
| No.20 | 図書館運営事務 | 25 |
| No.21 | 読書推進活動事業 | 26 |
| IV | 教育委員会における今後の対応について | 27 |

教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成20年4月1日施行)の施行により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。

本報告書は、同法26条の規定に基づき、平成28年度における茨城町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験を有する者の意見を付して報告するものである。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことにより、事業の成果や課題を検証し、効率的かつ効果的な教育行政の推進に資することを目的とする。

3 対象

茨城町第5次総合計画後期基本計画に基づき、平成28年度に実施した教育委員会の主要な21事業を対象とした。

4 点検及び評価の方法

- (1) 各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から検証した。
- (2) 各事業の成果と課題を検証し、今後の事業の方向性を確認した。
- (3) 学識経験者の知見を活用し、各事業を客観的に点検・評価した。

【原課評価：事業の執行者による自己評価】

各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から3段階で評価し、観点別評価の理由を付した。

- 必要性・・・「必要性が高い」、「一定の必要性がある」、「必要性が低い」
- 有効性・・・「効果がある」、「一定の効果がある」、「効果がない」
- 効率性・・・「効率的である」、「概ね効率的である」、「効率的でない」

【委員評価：評価委員による評価】

各事業の今後の方向性について、「現行どおり」、「拡大」、「縮小」、「休止」及び「廃止」の5段階で評価し、言及された課題や改善策等を評価委員意見として付した。

5 茨城町教育委員会評価委員会委員

委員長

高橋 燦吉 (元八戸工業大学学長)

副委員長

清水 正三 (茨城町教育支援センター 生徒指導相談員)

委員

早乙女 恵美子 (元町教育委員会職員)

6 評価委員会実施日

平成 29 年 7 月 26 日(水曜)

茨城町の教育に関する事務事業の

| 事業数 | 分類 | 目的 | VLT | 事業資源元 | | | | 事業対象範囲 | |
|----------|--|----------------------|-----|-------|---|---|---|-------------------------------|-----|
| | | | | 国 | 県 | 町 | 参 | 幼児/幼稚園 | 小学校 |
| 1 | 基 備 育 整 教 盤 | 地域における情報拠点としての図書館運営 | | | | ○ | | No.20 図書館 | |
| 2 | 学 校 教 育 の 質 的 向 上 ・ 支 援 | 通学における安全性の向上 | | | | ○ | | No.1 小中学生ヘルメット | |
| 3 | | 通学時における児童・生徒の安全確保 | ○ | | | ○ | | No.2 児童・生徒 | |
| 4 | | 規範意識や社会性の向上 | | | | ○ | | No.3 道徳教育 | |
| 5 | | 総合力の向上と心の教育の充実 | | | | ○ | | No.4 読書普及 | |
| 6 | | 英語教育の強化と指導体制の充実 | | | | ○ | | No.5 語 学 指 | |
| 7 | | 個に応じたきめ細やかな学習支援 | | | | ○ | | No.7 学習指導支援 | |
| 8 | | 障害のある児童・生徒の学習支援 | | | | ○ | | No.8 特別支援教育 | |
| 9 | | 自然体験と集団生活を通じた人間育成 | | | | ○ | ○ | | |
| 10 | | 体験学習を通じた人間育成 | | | | ○ | | No.10 農 業 | |
| 11 12 | | 通学における利便性・安全性の向上 | | ○ | | ○ | ○ | No.12 スクールバ ス運行事業(小学 校) | |
| 13 | 学 援 外 支 校 習 | 不登校児童・生徒の学校及び社会復帰の支援 | | | | ○ | | No.6 教育支援 | |
| 14 | 青 少 年 ・ 家 庭 教 育 ・ 生 涯 学 習 支 援 | 放課後学習活動の支援 | | | | ○ | | No.11 放課後ス クールサポート事 業 | |
| 15 | | 体験学習を通じた人間育成 | ○ | | | ○ | ○ | No.14 青少年 | |
| 16 | | 次代を担う人材の育成 | ○ | | ○ | ○ | ○ | No.15 放課後子ど も 教室推進事業 | |
| 17 | | 生涯学習と社会参加の促進 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 18 | | 高齢者の生涯学習の促進 | | | | ○ | ○ | | |
| 19 | | 文化・芸術を通じた人間育成 | | | | ○ | | No.18 | |
| 20 | | スポーツを通じた心身の鍛錬及び人間育成 | | | | ○ | | No.19 茨城町子ども | |
| 21 | | 絵本を通じたコミュニケーションの促進 | ○ | | | ○ | | No.21 読書推進 活動事業 | |

VLT: ボランティア協力者の有無 参: 参加者負担金の有無 原課評価は、「高」、「中」、「低」の3段階評価

点検・評価結果(平成28年度事業)

| 事業対象範囲 | | 原課評価 | | | 委員評価 | |
|-----------------------|------|------|-----|-----|------|--|
| 中学校 | 生涯教育 | 必要性 | 有効性 | 効率性 | 評価 | 意見等 |
| 運営事務 | | 高 | 高 | 中 | 現 | 人気の高い書籍や高齢者向けの大活字本図書館の蔵書拡充など、きめ細やかに対応している。今後も同様の事業実施に努められたい。 |
| 購入補助事業 | | 高 | 中 | 高 | 現 | 町として児童生徒の交通安全を推進することは重要である。今後も継続して実施に努められたい。 |
| 防犯対策事業 | | 高 | 高 | 中 | 現 | 最近、集団登校制にも関わらず、児童生徒一人遅れて歩く姿が見られる。女性の社会進出等により、指定集合場所に指定集合時間までに児童を送り出すのが難しい場合も多くなると考えられる。父兄への児童安全確保への一層の理解と協力を学校から徹底するようお願いしたい。また、防犯パトロールについては、死角になりがちな住宅地も重点的に見回るよう検討されたい。 |
| 推進事業 | | 高 | 高 | 中 | 現 | 道徳教育は繰り返しの実施にこそ意味があり実効性が高まるものである。教員の負担等も考慮し、中学校2校の共同開催方式を採っている立志のつどいの実施方法を検討する等、効率的な事業実施に努められたい。 |
| 推進事業 | | 高 | 高 | 中 | 現 | 読書活動の推進については町の重要な施策の一つである。該当児童生徒だけではなく、その家族も対象に活動推進を図れるような取り組みを検討されたい。 |
| 導 事 業 | | 高 | 高 | 中 | 現 | 従来、ALTを委託契約方式で派遣していたが、英語教育への町の姿勢の明確化と強化のため、直接雇用制に採ったことは評価できる。今後は町の姿勢と期待をALTの方々に理解してもらえようような取り組みが必要である。英語教育が重視されていくことを考慮し、効果的な事業実施に努められたい。 |
| 講師配置事業 | | 高 | 高 | 中 | 現 | 国語力の向上がすべての教科の理解を深め、学びを楽しくさせる基本である。児童生徒が学ぶ喜びと学校の楽しさを実感すれば、不登校、いじめ等の減少・撲滅も夢でない。教育投資の焦点を浮かび上がらせた貴重なデータである。事業の対象となっている科目の成績が他の科目にどのように関連しているか、PDCA等の手法で分析し、より効率的な事業実施に努められたい。 |
| 支援員配置事業 | | 高 | 高 | 高 | 拡大 | 発達障害の支援は小学校低学年層に焦点を当てると効果が高まる。これらの児童生徒に個別に対応するためには、その人数に応じた支援員が必要である。学校現場の教員だけで対応するのは困難であるため、事業の効果的推進を基本に、拡大に努められたい。 |
| No.9 中学生自然体験教室事業 | | 高 | 高 | 中 | 現 | 各生徒の貴重な経験の機会であるとともに、記憶にも残ると思われる事業であるが参加できなかった生徒もいた。町としてそのような生徒の実態把握に努め、全員が参加できるように取り組みを検討されたい。 |
| 体 験 事 業 | | 高 | 中 | 高 | 現 | 農業は茨城町の主幹産業である。郷土を愛する心を養うふるさと学習の一環としても事業継続に努められたい。 |
| No.13 スクールバス運行事業(中学校) | | 高 | 高 | 高 | 現 | バス通学となったことについてのメリットを洗い出し、次年度以降の事業についても継続的に改善できるように取り組みを検討されたい。また、利用料の滞納状況については十分に注意を払い、厳正な対応に努められたい。乗車人数が少ない路線については小型のバスを用いるなど、より弾力的な運用をもって経費削減に努められたい。 |
| センター事業 | | 高 | 高 | 高 | 現 | 他自治体からも本事業の取り組みについての評判は高い。今後も継続して実施に努められたい。 |
| | | 高 | 高 | 中 | 現 | 放課後スクールサポーターは時間給での雇用となっているうえに、一日当たり1時間程度の短時間の勤務であるため、協力者を探すのが難しいと思われる。人材確保及び士気向上のため、当事業のサポーターの名称を魅力的なものに変更するなどの施策を検討されたい。 |
| 育成事業 | | 高 | 高 | 高 | 現 | 7泊8日の長期宿泊で、本年度12回目の実施とのことだが、年々ボランティアや関係職員の負担が増加しているように見受けられる。事業そのものの大幅な見直しも含め、対応を検討されたい。 |
| | | 高 | 高 | 高 | 現 | 現在、NPO法人に委託して実施しているが、今後は地域の方々にもより深く関わっていただけるような取り組みを検討されたい。 |
| No.16 町民教養講座開設事業 | | 中 | 高 | 中 | 現 | 実施場所の確保が難しい時期もあり受講者数は伸び悩んだが、実施自体は活発に行われているとのこと、今後も着実な事業実施に努められたい。また、高齢者を積極的に講師に採用することにより、雇用性機能低下を防ぐような施策も検討されたい。 |
| No.17 長生大学運営事業 | | 高 | 高 | 高 | 現 | リピーターが多いということで、着実に定着が図られている。今後も継続して実施をしてほしい。 |
| 人づくり推進事業 | | 高 | 高 | 高 | 現 | 町民に対する学びの機会の提供として、より多くの町民が参加できるよう、今後も継続した事業実施に努められたい。 |
| フェスティバル | | 高 | 高 | 高 | 現 | 町の活気を盛り立てていくため、また子ども世代の結束強化のためにも、今後も継続した事業実施に努められたい。 |
| | | 高 | 高 | 中 | 現 | 各学校へ配置が義務付けられている司書教諭とも連携を図り、より良い学校図書室運営に努められたい。 |

委員評価は、「現:現行どおり」、「拡:拡大」、「縮:縮小」、「休:休止」、「廃:廃止」の5段階評価

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.1

平成28年度

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|----------|---|---|-----------|-------------|----------|-----------------|
| 事業名 | 小中学生ヘルメット購入補助事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 | |
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 2 | 項 | 1 | 目 | 21 | 事業 | 18 | 小中学生ヘルメット購入補助事業 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | | 1,450 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 2,518 千円 | | | 0 千円 | | 1,340 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒 | | | | | | | |
| | 目的 | 登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童・生徒の安全を確保することを目的とする。 | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 小学生に対しては新入学児童全員にヘルメットを配布した。 中学生に対しては新入学生徒のうち自転車通学者に対し、ヘルメットの購入額を全額補助した。 | | | | | | | | |
| | 項目 | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
| | ヘルメット導入済みの学校への支給 | | | | | 2校(526名) | / | / | |
| | ヘルメットの無償提供数 | | | | | 1,145名 | 570名 | 534名 | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 当町は公共交通機関に乏しくスクールバスを導入している学校に在籍する対象地域の児童生徒以外は原則自転車もしくは徒歩通学となる。そのため交通事故から子どもたちを守る対策が必要である。 | | | | | | | |
| | 有効性 | ○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | ヘルメットを導入してから重大な事故は発生していない。登下校中の児童を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。 | | | | | | | |
| | 効率性 | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 初年度は、一般財源からの支出により全児童に配布・自転車通学の生徒へ購入代金を補助したが、以降は新入学生分だけの支出となる。 | | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | |
| | 町として児童生徒の交通安全を推進することは重要である。今後も継続して実施に努められたい。 | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.2

平成28年度

| 事業名 | 児童・生徒防犯対策事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 | | |
|-------------------------|--|---|---|-------------------|--------|-----------|-------------|-----------------|------|--|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | | | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 2 | 事業 | 13 児童・生徒防犯対策事業費 | | |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | | |
| | 一般財源 | | 131 千円 | | 129 千円 | | 129 千円 | | | |
| 4 事業の目的 | 対象 | PTA会員, 「110番の家」看板の設置宅 | | | | | | | | |
| | 目的 | 登下校時における犯罪等の未然防止に努め, 学校, PTA, ボランティアなど地域全体で児童・生徒の安全を確保することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | <p>【保険】 立哨, 引率等, 防犯活動に対する保険のため, 茨城県PTA安全互助会の加入者負担金を支出。</p> <p>【「110番の家」看板】 協力者宅に配布する看板を作製。(看板の劣化に応じて3~4年ごとに作製)</p> | | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | | | |
| | 「110番の家」看板設置軒数 | | | 985 軒 | 982軒 | 982軒 | | | | |
| | 小中学校からの不審者情報に関する報告件数 | | | 5 件 | 7件 | 8件 | | | | |
| | 小中学校における通学安全対策に係る組織の設置数 | | | 11校/11校 | 8校/8校 | 6校/6校 | | | | |
| | 町防災無線による下校時間の周知 | | | 毎週火曜日の下校時間にあわせて実施 | | | | | | |
| | 青色パトロール車による巡視 | | | 登校期間(木曜を除く)に実施 | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | | 児童生徒の安全は地域社会における重要事項の一つであり, 昨今の社会情勢を鑑みてもその必要性は高い。 | | | | | | | |
| | 有効性 | | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | | 報告された不審者情報件数は増加傾向であり, 今後もより一層, このような活動の重要性がさらに増すと考えられる。 | | | | | | | |
| | 効率性 | | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | | 青色パトロール車については, 町教育委員会および町長公室の協力により日々実施を行っている。また, 防災無線については町民よりさまざまな意見をいただいているため, 音量を絞るなどの対策を行っている。 | | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 | | ○ 縮小 | | ○ 休止 | | ○ 廃止 | |
| | ● 現行どおり | | <p>最近, 集団登校制にも関わらず, 児童生徒一人遅れて歩く姿が見られる。女性の社会進出等により, 指定集合場所に指定集合時間までに児童を送り出すのが難しい場合も多くなると考えられる。父兄への児童安全確保への一層の理解と協力を学校から徹底するようお願いしたい。また, 防犯パトロールについては, 死角になりがちな住宅地も重点的に見回るよう検討されたい。</p> | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.3

平成28年度

| 事業名 | 道徳教育推進事業 | 担当課 | 学校教育課 |
|---|---|--|-----------|
| 1 総合計画の体系 | 章 4 充実した教育と安心コミュニティー(共同社会)のまちづくり | 節 1 明日を担う人づくり | |
| | 基本施策 2 学校教育の充実 | ② 教育環境の充実 | |
| 2 予算の体系 | 款 10 項 1 目 2 事業 | 17 | 道徳教育推進事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | 平成26年度 | 平成27年度 |
| | 国・県・支出金 | 0千円 | 0千円 |
| | その他財源 | 0千円 | 0千円 |
| | 一般財源 | 417千円 | 358千円 |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒 | |
| | 目的 | 生命尊重の心や自尊感情を育み、規範意識や社会性の向上を図る。 | |
| 5 事業の概要 | 【道徳講演】 正保 春彦: 講演「人間の心理と道徳」 ACM劇場: 朗読劇「金のおの」 村上 守: 視覚障がい者によるフルートとギターのコンサート | 【立志の集い】 期日: 平成29年2月28日 9:15~11:30 会場: 明光中学校 体育館 式典: 「志」発表、合唱、講演会等 | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | 平成26年度 | 平成27年度 |
| | 道徳講演会実施校数 | 11校 | 8校 |
| | 実演(演奏等)を含む道徳講演会実施校数 | 4校 | 4校 |
| | 立志の集い | 2中学校合同 | 2中学校合同 |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 充実した道徳教育の時間を確保することは、児童・生徒の豊かな心の育成に必要である。 | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 道徳講演会においては視覚障がい者のフルート・ギター奏者を招き、演奏をしてもらうなど、児童生徒の感覚に訴えかけるような講演を実施した。児童生徒からも、積極的な意見交換がされ、豊かな心の育成を進めることが出来た。 | |
| | 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | |
| | 経費や手段は適切であるか | 2中学校合同の立志の集いについては、各校ごとに別日程で立志の集いを実施している関係上、生徒や教員の負担になっている面があるとの声が聞かれた。 | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | |
| | ● 現行どおり | | |
| 道徳教育は繰り返しの実施にこそ意味があり、実効性が高まるものである。教員の負担等も考慮し、中学校2校の共同開催方式を採っている立志のつどいの実施方法を検討する等、効率的な事業実施に努められたい。 | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.4

平成28年度

| 事業名 | 読書普及推進事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 |
|-------------------------|--|--------------------------------------|--------|---|--------|-----------|--------------------------|------------------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 2 | 事業 | 18 読書普及推進事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 202 千円 | | 224 千円 | | 213 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒 | | | | | | |
| | 目的 | 読書活動の推進を通して、児童・生徒の国語力の向上と心の教育の充実を図る。 | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 児童・生徒の読書活動を推進するため、読書記録(書名, 作者名, 感想等)を記載させる用紙及び用紙の保管用のバインダーを配布し、年間を通じて目標冊数を達成した児童・生徒に対して、賞状を授与する。 | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
| | 小学校1~6年生の6年間で100冊以上の本を読んだ児童数 | | | | 509 | 599 | 627 | |
| | 中学校1~3年生の3年間で50冊以上の本を読んだ生徒数 | | | | 62 | 58 | 58 | |
| | 読書は好きですか(全国学習状況調査の結果) 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合 | | | | | | 小 : 71.8 % 中 : 71.4 % | 小 : 80.5% 中 : 73.0% |
| 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | | |
| 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 児童・生徒の国語力の向上及び心の教育の充実のため、読書の有効性が注目されており、読書活動を推進するために本事業が必要である。 | | | | | | | |
| 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | | |
| 目的とする実績や成果はあげられたか | 本事業を中心とした読書活動の推進により、家庭での読書の習慣が定着し、年間の読書冊数の目標を達成する児童・生徒数は増加している。それに伴い、児童・生徒の読解力が向上してきている。 | | | | | | | |
| 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | | |
| 経費や手段は適切であるか | 町の年間の読書冊数の目標を設定し、小学生が100冊以上、中学校は50冊以上の達成者に対して賞状を配布した。今後もより事業効果が上がるように努める。 | | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 | | ○ 縮小 | | ○ 休止 ○ 廃止 | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | |
| | 読書活動の推進については町の重要な施策の一つである。該当児童生徒だけではなく、その家族も対象に活動推進を図れるような取り組みを検討されたい。 | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.5

平成28年度

| 事業名 | 語学指導事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 | |
|-------------------------|---|--|---|------|------|-----------|-------------|-----------|--------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 3 | 事業 | 12 | 語学指導経費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 12,045 千円 | | | 12,456 千円 | | 12,050 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒 | | | | | | | |
| | 目的 | 児童・生徒の英語学力の向上と、将来、国際化社会において活躍できる人材の育成を目指す。 | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 各中学校に英語教諭のサポートとして、外国語英語指導助手(ALT)を配置し、英語教育の充実を図っている。また、平成24年度から小学校においても英語教育が導入されており、小学校にもALTを派遣している。 | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
| | 英語力の向上(学力診断テスト1年生の平均点) | | | | | 68.6点 | 72.4点 | 78.1点 | |
| | ALT配置状況 | | | | | 3名 | 3名 | 3名 | |
| | | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | | 国際化社会で活躍できる人材育成のサポート役として、ネイティブ・スピーカーであるALTの必要性は大きい。 | | | | | | |
| | 有効性 | | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | | 小学校においてもALTを活用することで、中学一年生の学力テストにおける平均点は上昇している。 | | | | | | |
| | 効率性 | | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | | 直接雇用により、ALTを配置している。委託契約よりも経費は上がるが、現場での打ち合わせの時間がとりやすい等のメリットがあった。今後、小学校において英語教育が義務化され増員が見込まれるなかで、より効果的な活用について検討する必要がある。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 | ○ 縮小 | ○ 休止 | ○ 廃止 | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | |
| | 従来、ALTを委託契約方式で派遣していたが、英語教育への町の姿勢の明確化と強化のため、直接雇用制に採ったことは評価できる。今後は町の姿勢と期待を、ALTの方々に理解してもらえるような取り組みが必要である。英語教育が重視されていくことを考慮し、効果的な事業実施に努められたい。 | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.6

平成28年度

| 事業名 | 教育支援センター事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 |
|-------------------------|---|---|---------------------|-----------------------------|---------|---|-------------|---------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | |
| | 基本施策 | | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 3 | 事業 | 13 教育支援センター経費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0千円 | | 0千円 | | 0千円 | |
| | その他財源 | | 0千円 | | 0千円 | | 0千円 | |
| | 一般財源 | | 6,103千円 | | 6,110千円 | | 6,539千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒及び教職員 | | | | | | |
| | 目的 | 不登校、暴力行為、いじめ等の未然防止及び早期対応と、不登校に陥った児童・生徒の社会復帰支援を行う。また、児童・生徒の指導に関する教職員からの相談を受け、教職員の指導力向上を図る。 | | | | | | |
| 5 事業の概要 | <p>【勤務時間】 年間を通じて、実情に応じて勤務(7時間45分以内/日, 3日以内/週)</p> <p>【勤務内容】 主な業務は、不登校をはじめとした生徒指導上の問題を抱える児童・生徒に対する指導や相談業務である。また、各小中学校教師の生徒指導力の向上を図るための研修を行う。</p> | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | | |
| | 不登校児童生徒数(30日以上・病欠を除く) | | 23人 | 24人 | 25人 | | | |
| | 児童・生徒100人あたりの不登校の出現者数(町/県) | | 0.92人/1.21人 | 0.98人/1.26人 | 1.04人/ | | | |
| | 教育支援センターへの相談件数 | | 188件 | 756件 | 938件 | | | |
| 相談員の配置状況 | | 6名 | 6名 | 7名 (週の全体勤務時間は変わらず、人員のみ増) | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 不登校等の児童生徒における指導上の問題は、家庭環境や友人関係に起因するものが多く、根深いうえに複雑化している。相談を寄せられる件数も増大しているため、必要性は高い。 | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 保護者にその事業の存在が浸透し、相談件数が増大している。様々な問題に対し幅広い対応がとれるように、学校との情報交換等が密に図られるようになっている。 | | | | | | |
| | 効率性 | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 経験豊富な学識経験者を起用することにより、問題に効率的に対処している。100人あたりの不登校出現者数も例年県平均を下回っている。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | |
| | 他自治体からも本事業の取り組みについての評判は高い。今後も継続して実施に努められたい。 | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.7

平成28年度

| 事業名 | 学習指導支援講師配置事業 | | | | | 担当課 | 学校教育課 |
|-------------------------|---|---|-----------|--------|-----------|------------------|-----------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ（共同社会）のまちづくり | | | 節 | 1 充実した教育と教育施設の整備 | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | | | ①教育内容の充実 | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 3 | 事業 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 |
| | その他財源 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 |
| | 一般財源 | | 19,269 千円 | | 16,961 千円 | | 17,256 千円 |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒 | | | | | |
| | 目的 | 全国学力・学習状況調査の結果や町指導主事による学校訪問指導の結果を総合的に考慮し、学力低下が懸念される学校や落ち着きのある学級運営が困難化している学校へ講師を配置し、きめ細やかな授業を展開し、学力の向上を図る。 | | | | | |
| 5 事業の概要 | <p>【勤務時間】 年間1,050時間以内(8時間以内/日 , 30時間以内/週 , 5日以内/週)</p> <p>【勤務内容】 学級担任とともにチームティーチング指導の実施。 少人数の学習集団を形成し、個に応じたきめ細やかな指導の実施。</p> | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | 学習指導支援講師数(配置校数) | | | | 9 人(7 校) | 8 人(6 校) | 8人(6 校) |
| | 全国学力・学習状況調査 対象:小学校第6学年児童 | 国語の勉強は好きですか | | | 70.4 % | 63.4 % | 71.7% |
| | | 国語の授業はわかりますか | | | 86.9 % | 84.1 % | 88.3% |
| | 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合 | 算数の勉強は好きですか | | | 74.3 % | 74.1 % | 76.1% |
| 算数の授業はわかりますか | | | 88.0 % | 86.7 % | 89.1% | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 各学校の状況に応じて、非常勤講師を配置することで、少人数単位で柔軟に対応することができ指導が行き届くようになるため、必要性は高い。 | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 国語や算数の授業がわかると回答した児童の割合が8割を超えており、個別指導や少人数学習による学力の定着に効果をあげている。 | | | | | |
| | 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 各学校の実状に即し、より高い事業効果をあげるべく、事業の運用方法を随時改善し、効果的に活用できるよう対応していく必要がある。 | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | ○ 拡大 | ○ 縮小 | ○ 休止 | ○ 廃止 | | |
| | ● 現行どおり | <p>国語力の向上がすべての教科の理解を深め、学びを楽しくさせる基本である。児童生徒が学ぶ喜びと学校の楽しさを実感すれば、不登校、いじめ等の減少・撲滅も夢でない。教育投資の焦点を浮かび上がらせた貴重なデータである。事業の対象となっている科目の成績が他の科目にどのように関連しているか、PDCA等の手法で分析し、より効率的な事業実施に努められたい。</p> | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.8

平成28年度

| 事業名 | 特別支援教育支援員配置事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 |
|-------------------------|--|---|----------|---|----------|-----------|-------------|-------------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 3 | 事業 | 17 特別支援教育支援員配置事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 7,018 千円 | | 7,513 千円 | | 7,220 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒(肢体不自由・発達障害がある者) | | | | | | |
| | 目的 | 普通学級及び特別支援学級に在籍する肢体不自由や発達障害のある児童・生徒に対して、校内における日常生活の介助や危険な行動の防止など安全面に配慮した支援を行う。 | | | | | | |
| 5 事業の概要 | <p>【勤務時間】 年間900時間以内(6時間以内/日 , 28時間以内/週 , 5日以内/週)</p> <p>【勤務内容】 日常生活の介助, 教室間移動の介助, 健康・安全確保, 教材作成等を行う。</p> | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
| | 特別支援教育支援員数 | | | | 8 人 | 9 人 | 8人 | |
| | 特別支援教育支援員配置校数 | | | | 8 校 | 6 校 | 6 校 | |
| | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 支援を必要とする児童・生徒に対し適切な教育を実施し, 円滑な学校運営を行うためには, 各学校の実状に応じて支援員を配置することは必要である。 | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 児童・生徒の校内における日常生活の支援及び安全確保が可能となり, 同時に学級が落ち着き, 授業に集中することができるようになった。 | | | | | | |
| | 効率性 | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 支援を必要とする児童・生徒の増減に応じて支援員の配置人数も増減するため, それに合わせて経費も変動する。個別に支援を必要とする児童・生徒に柔軟に対応できる人数を配置しているため, 効率性は高い。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ● 改善が必要 | ● 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | |
| | ○ 現行どおり | | | | | | | |
| | <p>発達障害の支援は小学校低学年層に焦点を当てると効果が高まる。これらの児童生徒に個別に対応するためには, その人数に応じた支援員が必要である。学校現場の教員だけで対応するのは困難であるため, 事業の効果的推進を基本に, 拡大に努められたい。</p> | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.9

平成28年度

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|--|---------|---|---|-----------|-------------|----------|--------------|
| 事業名 | 中学生自然体験教室事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 | |
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 3 | 事業 | 28 | 中学生自然体験教室事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 7,515千円 | | | 9,420 千円 | | 9,270 千円 | |
| | 一般財源 | | 551千円 | | | 397 千円 | | 378 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 生徒(中学校2年生) | | | | | | | |
| | 目的 | 集団生活を通して、礼儀・規律・責任・協力・自立などの心を育むとともに、生徒相互及び生徒と教師の心の交流を深める | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 町内2校の中学校2年生が合同で、4泊5日の日程で北海道の雄大な自然環境と文化を実体験する。 ※ふるさと創生事業基金充当 参加者×3万 | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
| | 青葉中参加人数 | | | | | 101名 | 134名 | 125名 | |
| | 明光中参加人数 | | | | | 150名 | 180名 | 163名 | |
| | 計 | | | | | 251名 | 314名 | 288名 | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 中学校時代の良き思い出作りとして、また、豊かな情操教育の一環として必要性が高い。 | | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 北海道の大自然の中、4泊5日の日程で共に過ごすことにより、生徒同士や教員との絆が育まれた。また、ポロコタンなどのアイヌ文化の史跡を訪れることで、実体験に基づく見識を深めることが出来た。 | | | | | | | |
| | 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 旅行会社や関係者と十分協議をしたうえで概ね適切な事業計画・執行がなされた。 | | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | |
| | 各生徒の貴重な経験の機会であるとともに、記憶にも残ると思われる事業であるが、参加できなかった生徒もいた。町としてそのような生徒の実態把握に努め、全員が参加できるような取り組みを検討されたい。 | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.10

平成28年度

| 事業名 | 農業体験事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 | |
|-------------------------|--|---|--|---|--|-----------|------------------|--------|---------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 充実した教育と教育施設の整備 | | |
| | 基本施策 | | 2 学校教育の充実 | | | ① 教育内容の充実 | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 3 | 事業 | 29 | 農業体験事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 182 千円 | | | 127 千円 | | 140 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒 | | | | | | | |
| | 目的 | 農業体験を通して、生命を大切に作る心や思いやり、助け合いの心、困難にくじけず力強く生きる力を育む。 | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 【小学校】 農家の方々からの指導・助言をもらいながら各校の計画により稲や野菜の栽培及び収穫を行う。 | | | | 【中学校】 中学校近くの遊休農地において、年間を通して農作物を栽培し、収穫後の農作物の活用方法等も決める。 | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
| | 実施校数 | | | | | 11校 | 8校 | 6校 | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | | 平成23年度から実施されている新学習指導要領に「食育の推進」が位置づけられており、食育の推進を行う活動として必要である。 | | | | | | |
| | 有効性 | | ○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | | 活動を通して、生命の大切さを学び生産者への感謝の気持ちを持つことができるようになった。 | | | | | | |
| | 効率性 | | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | | 体験学習にかかる材料費、協力していただいた農家に対しての謝金等適切に執行されている。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | |
| | 農業は茨城町の主幹産業である。郷土を愛する心を養うふるさと学習の一環としても事業継続に努められたい。 | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.11

平成28年度

| 事業名 | 放課後スクールサポート事業 | | | | | | 担当課 | 学校教育課 |
|-------------------------|---|--|---------------------|---|---|--------|-------------|-------------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | |
| | 基本施策 | | 2 学校教育の充実 | | | | ② 教育環境の充実 | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 1 | 目 | 3 | 事業 | 31 放課後スクールサポート事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | | 平成27年度 | | 平成28年度 |
| | 国・県・支出金 | | / | | | 0 千円 | | 0 千円 |
| | その他財源 | | / | | | 0 千円 | | 0 千円 |
| | 一般財源 | | / | | | 951 千円 | | 1,413 千円 |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童(青葉小学校・葵小学校 低学年) | | | | | | |
| | 目的 | スクールバスを運行する青葉小学校,葵小学校に配置し,放課後の児童の学習等活動の支援を行う。 | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 【勤務時間】 青葉小学校,葵小学校の授業日において,実情に応じて勤務する 勤務時間は1日1時間以内 【勤務内容】 児童の学習指導,読書活動を実施 | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | 放課後スクールサポーターの配置状況 | | | | | / | 15名 | 18名 |
| | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 学校統合によるスクールバスの導入に伴う児童の下校時間のずれを解消することを目的とした事業である。放課後のクラブ活動や委員会等に出ている教職員をサポートするために必要性は高い事業である。 | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 上級生の下校を待つ時間を有効に活用することで,下級生の学習習慣の定着につながっている。 | | | | | | |
| | 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | クラスごとに配置をしており人員が必要とされる一方で,短時間勤務のために,支援員の収入は少なく,今後については人員確保が課題となると考えられる。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | |
| | 放課後スクールサポーターは時間給での雇用となっているうえに,一日当たり1時間程度の短時間の勤務であるため,協力者を探すのが難しいと思われる。人材確保及び士気向上のため,当事業のサポーターの名称を魅力的なものに変更するなどの施策を検討されたい。 | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.12

平成28年度

| 事業名 | スクールバス運行事業(青葉小・葵小) | 担当課 | 学校教育課 | |
|--|--|---|-----------|----------|
| 1 総合計画の体系 | 章 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | 節 1 明日を担う人づくり | | |
| | 基本施策 2 学校教育の充実 | ② 教育環境の充実 | | |
| 2 予算の体系 | 款 10 項 2 目 1 事業 14 | 小学校スクールバス運行事業費 | | |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | 国・県・支出金 | / | 23,209 千円 | 33,703千円 |
| | その他財源 | / | 10,534 千円 | 14,303千円 |
| | 一般財源 | / | 33,575 千円 | 48,377千円 |
| 4 事業の目的 | 対象 | 青葉小学校・葵小学校に在籍し、おおむね3km以上の地区から通学する児童(希望制) | | |
| | 目的 | 学校統合により、遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る。 | | |
| 5 事業の概要 | <p>【運行車両】大型バス10台、中型バス8台、小型バス1台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時1回、下校時1回の計2回</p> <p>【停留所数】青葉小学校:48ヶ所、葵小学校:22ヶ所</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円(8月分の利用料は徴収しない)</p> <p>・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目以降の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。</p> <p>・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p> | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | スクールバス利用者数 | / | 427 名 | 483名 |
| | スクールバス年間運行日数 | / | 206 日 | 207日 |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法等を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。 | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | スクールバスを導入して2年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故やトラブルもなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげた。 | | |
| | 効率性 | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 運行内容や方法等を精査したうえで、入札により決定した適正な価格で事業運営を行った。 | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | |
| | ● 現行どおり | | | |
| バス通学となったことについてのメリットを洗い出し、次年度以降の事業についても継続的に改善できるような取り組みを検討されたい。また、利用料の滞納状況については十分に注意を払い、厳正な対処に努められたい。 | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.13

平成28年度

| 事業名 | スクールバス運行事業(青葉中) | 担当課 | 学校教育課 | |
|---|--|---|--------------------------|---------|
| 1 総合計画の体系 | 章 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | 節 | 1 明日を担う人づくり | |
| | 基本施策 | 2 学校教育の充実 | ② 教育環境の充実 | |
| 2 予算の体系 | 款 10 | 項 3 | 目 1 事業 14 中学校スクールバス運行事業費 | |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | 国・県・支出金 | 853 千円 | 3,413 千円 | 3,303千円 |
| | その他財源 | 871 千円 | 921 千円 | 888千円 |
| | 一般財源 | 1,936 千円 | 3,399 千円 | 3,542千円 |
| 4 事業の目的 | 対象 | 青葉中学校に在籍し、昭和区及び網掛区等、遠距離から通学する生徒(希望制) | | |
| | 目的 | 学校統合により、遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る。 | | |
| 5 事業の概要 | <p>【運行車両】中型バス1台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時2回、下校時2回の計4回</p> <p>【停留所数】3ヶ所(香取学習館・網掛学習塾前・網掛ゴミ収集所)</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円(8月分の利用料は徴収しない)</p> <p>・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目以降の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。</p> <p>・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p> | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | スクールバス利用者数 | 30 名 | 30名 | 28名 |
| | スクールバス年間運行日数 | 201日 | 200日 | 201日 |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法等を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。 | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | スクールバスを導入して3年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故やトラブルもなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげた。 | | |
| | 効率性 | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | |
| 経費や手段は適切であるか | 運行内容や方法等を精査したうえで、入札により決定した適正な価格で事業運営を行った。 | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | |
| | ● 現行どおり | | | |
| 乗車人数が少ない路線については小型のバスを用いるなど、より弾力的な運用をもって経費削減に努められたい。 | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.14

平成28年度分

| 事業名 | 青少年育成事業 | | | | | | 担当課 | 生涯学習課 | |
|-------------------------|--|--|---|---|--------|------------|-------------|-------------|--------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | | |
| | 基本施策 | 3 青少年の健全育成 | | | | ① 青少年の育成支援 | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 5 | 目 | 2 | 事業 | 12 青少年育成事業費 | |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | |
| | その他財源 | | 483 千円 | | 406 千円 | | 447 千円 | | |
| | 一般財源 | | 172 千円 | | 108 千円 | | 207 千円 | | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童・生徒 | | | | | | | |
| | 目的 | 町内の子どもたちが一堂に会し、自然豊かな環境の中で生活することにより、子どもたちの創造力や協調性を養い、忍耐力を身に付け、生き抜く力を育むことを目的とする。 | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 【実施期間】 平成28年7月27日～8月3日 【実施場所】 涸沼自然公園等 【参加人数】 児童・生徒 45人 【研修】 事前研修 3回, 事後研修 1回 | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | 筑波山登山 | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| | 食育体験 | | | | | | 食事づくり | 食事づくり | 食事づくり |
| | 公園周辺クリーン作戦 | | | | | | ○ | ○ | |
| | 里山体験 | | | | | | ○ | | ○ |
| 7 事業の評価 | 必要性 | | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | | 日常生活では経験できない活動を通して、協調性や困難を乗り越える忍耐力を培い、達成感を味わう機会を提供している。 | | | | | | |
| | 有効性 | | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | | 異年齢の子どもたちが共同生活を送ることで、自主性、協調性及び社会性の習得に結びついている。 | | | | | | |
| | 効率性 | | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | | 本年度(H28)は、民泊を行っていないため賄材料費が増えたが、その他の経費の節減に努めている。また、事前の会場準備や子どもたちの見守り等については、町民からの協力を得るなどして滞りなく執行している。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | |
| | 7泊8日の長期宿泊で、本年度12回目の実施とのことだが、年々ボランティアや関係職員の負担が増加しているように見受けられる。事業そのものの大幅な見直しも含め、対応を検討されたい。 | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.15

平成28年度分

| 事業名 | 放課後子ども教室推進事業 | | | | | | 担当課 | 生涯学習課 |
|-------------------------|--|---|---------------------|--------|--------|--------|-------------|------------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | |
| | 基本施策 | | 3 青少年の健全育成 | | | | ① 青少年の育成支援 | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 5 | 目 | 2 | 事業 | 13 放課後子ども教室推進事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | | | | | 2,307 千円 | |
| | その他財源 | | | | | | 431 千円 | |
| | 一般財源 | | | | | | 1,671 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 児童 | | | | | | |
| | 目的 | 共働き家庭の「小1の壁」を打破するとともに次代を担う人材を育成するため、放課後児童クラブ及び地域住民等の参画を得て、全ての児童が放課後を安全安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう推進していく。 | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 平成28年度から町内全4小学校において実施。 長岡小学校, 大戸小学校, 葵小学校は定員100名, 青葉小学校は定員150名。 放課後の時間を利用して, 将棋教室, 読み聞かせ, 工作, スポーツ, 自主学習等を行っている。 | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | |
| | 実施校数 | | | | | 4 校 | | |
| | 参加者数 | | | | | 271 人 | | |
| | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 参加児童及び保護者より好評を得ており, 口コミ等により年度途中からの参加も増えている。 | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 参加児童の保護者から,「放課後子ども教室に参加した感想等, 家での会話が増えた。」「活動中に作った作品を持ち帰ってきてくれて嬉しい。」「宿題を終わらせてくれるので, 家でのコミュニケーションの時間が増えた。」等の感想をいただいている。 | | | | | | |
| | 効率性 | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 現在は, 業務委託により行っている。長岡小学校においては, 参加児童の保護者がスタッフに加わっているが, 他校においても地域住民の参画を増やしていく必要がある。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | |
| | 現在,NPO法人に委託して実施しているが, 今後は地域の方々にもより深く関わっていけるような取り組みを検討されたい。 | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.16

平成28年度分

| 事業名 | 町民教養講座開設事業 | | | | | | 担当課 | 生涯学習課 |
|-------------------------|---|--|--------|--------|---|------------|---------------------|----------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティー(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進 | |
| | 基本施策 | 1 生涯学習の推進 | | | | ①生涯学習機会の充実 | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 5 | 目 | 5 | 事業 | 13 町民教養講座開設事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 543 千円 | | 521 千円 | | 488 千円 | |
| | 一般財源 | | 430 千円 | | 428 千円 | | 259 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 全町民 | | | | | | |
| | 目的 | 町民に様々な学習の機会を提供をすることにより、より豊かな情操を持ち学習意欲を高め、社会への積極的な参加を促すとともに、自分の生涯学習を見つけることを目的として開講する。 | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 【平成28年度実績】 ・20回講座 演劇講座 ・10回講座 つるし雛、うれしい花巻寿司、ヨガ、 ハワイアンストレッチ ・5回講座 ソープカービング(経験者・初心者) ・2回講座 一閑張り教室 | | | | 【事業の流れ】 4月中旬 受講者募集(全戸にチラシを配布) 5月上旬 募集締切 6月開講 | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | |
| | 長期講座受講者数 | | | 15 人 | 11 人 | 6 人 | | |
| | 短期講座受講者数 | | | 150 人 | 198 人 | 102 人 | | |
| | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ○ 必要性が高い ● 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 町民ニーズの把握に努めているが、今後は若い世代も視野に入れた講座の開設が必要である。 | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 受講者が自主的に活動していくクラブ化が進み、生涯学習として長く続けたいける体制が増えてきており、実績・成果ともにあげられている。 | | | | | | |
| | 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 昨年度から町民講師を活用している。また、マンネリ化を防ぐため、今後も県中央公民館連絡協議会加盟市町村等から情報収集を行うなど、講座の充実に努めていく。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | |
| | 実施場所の確保が難しい時期もあり受講者数は伸び悩んだが、実施自体は活発に行われているとのことで、今後も着実な事業実施に努められたい。また、高齢者を積極的に講師に採用することにより、廃用性機能低下を防ぐような施策も検討されたい。 | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.17

平成28年度分

| 事業名 | 長生大学運営事業 | | | | | | 担当課 | 生涯学習課 | |
|-------------------------|--|---|---------------------|---|--------|--------|---------------------|-------|---------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進 | | |
| | 基本施策 | | 1 生涯学習の推進 | | | | ① 生涯学習機会の充実 | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 5 | 目 | 5 | 事業 | 14 | 長生大学事業費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | |
| | その他財源 | | 193 千円 | | 216 千円 | | 221 千円 | | |
| | 一般財源 | | 193 千円 | | 741 千円 | | 857 千円 | | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 65歳以上の町民 | | | | | | | |
| | 目的 | 時代に対応する心構えを養い、心身ともに健康で、生きがいのある人生を送るための学習やクラブ活動を行うことを目的とする。 | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 【事業内容】 実施回数：9回（うち野外研修1回） 活動内容：講話聴講（午前） 受講料：1,000円 送迎バス：1,000円（希望者） | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | |
| | 長生大学受講生数 | | | | 190 人 | 190 人 | 200 人 | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 毎年、長生大学の代表組織である運営委員会を開き、意見や感想を取り入れ、参加者の希望に添うような事業運営に努めている。 | | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 毎年継続して参加する受講者が多く、「良かった。」との意見をいただいている。 | | | | | | | |
| | 効率性 | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | できるだけ低料金の講師に依頼するなどして経費を抑えている。受講者の募集は、高齢者クラブや町広報誌で広く呼び掛けている。本年度(H28)の会場は桜の郷コミュニティセンターとなったが、参加者から理解を得られ問題なく遂行できた。 | | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | |
| | リピーターが多いということで、着実に定着が図られている。今後も継続して実施してほしい。 | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.18

平成28年度分

| 事業名 | 人づくり推進事業 | | | | | | 担当課 | 生涯学習課 | | | |
|-------------------------|---|--|--|---|--------|--------|---------------------|--------------|------|--|--|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進 | | | | |
| | 基本施策 | | 1 生涯学習の推進 | | | | ① 生涯学習機会の充実 | | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 5 | 目 | 7 | 事業 | 13 人づくり推進事業費 | | | |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | | | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | | | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | | | |
| | 一般財源 | | 260 千円 | | 507 千円 | | 507 千円 | | | | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 全町民 | | | | | | | | | |
| | 目的 | 一流の文化人による講演会を開催することにより、町民の学習活動を支援し、学習意欲の高揚を図ることを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 【人づくり文化講演会】 講師：宮本 隆治 氏（フリーアナウンサー） 演題：ゆとり・ユーマア・帰りは元気！ 期日：平成29年2月11日（茨城町民の日） 会場：町立中央公民館大ホール | | | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | | |
| | 文化講演会聴講者数 | | | | | 237 人 | 290 人 | 300 人 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | | 町民の学習機会の充実を図り、学習意欲の向上を支援するには本事業の必要性は高い。 | | | | | | | | |
| | 有効性 | | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | | 日常生活における充実感や豊かな心を育むとともに、自己啓発の場としての効果をあげている。 | | | | | | | | |
| | 効率性 | | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | | 多くの町民の参加を促すため、広報いばらきやホームページへの掲載のほか、秘書広聴課所管の町民の日開催ポスター等にも掲載を依頼して周知を図っている。 | | | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 | | ○ 縮小 | | ○ 休止 | | ○ 廃止 | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | | | |
| | 町民に対する学びの機会の提供として、より多くの町民が参加できるよう、今後も継続した事業実施に努められたい。 | | | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.19

平成28年度分

| 事業名 | 茨城町子どもフェスティバル | | | | | | 担当課 | 生涯学習課 | |
|-------------------------|--|---|--|---|---|--------|----------------------|-----------|-----------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進 | | |
| | 基本施策 | | 2 生涯スポーツ社会の実現 | | | | ① スポーツ・レクリエーション活動の推進 | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 6 | 目 | 1 | 事業 | 19 | 茨城町子どもフェスティバル経費 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 465 千円 | | | 505 千円 | | 416 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 幼児・児童・生徒 | | | | | | | |
| | 目的 | 多年齢層による子どもたちが一堂に会し、スポーツレクリエーションの喜びや楽しさを味わいながら、協調性や創造性を育み、心身ともにたくましい郷土の担い手を育成することを目的とする。 | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | スポーツチャレンジステージ、レクリエーションステージ、にぎわい交流ステージを設け、各ステージにおいて団体種目及び個人種目、ニュースポーツ、アトラクションを実施。また、子ども会育成会等の協力で模擬店を出店したり、青少年育成茨城町民会議と共催でペットボトルキャップの回収を行っている。 | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
| | 少年団対抗障害リレー参加チーム数 | | | | | | 24 チーム | 20 チーム | 雨天中止 |
| | 回収したペットボトルキャップ数 | | | | | | 65,600 個 | 105,350 個 | 43,430 個 |
| | | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | | 子どもたちが一堂に会し、楽しみながら仲間との交流を深め、スポーツやレクリエーションへの興味や関心を深める機会として、本事業は必要である。 | | | | | | |
| | 有効性 | | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | | 本事業は、子ども会育成会や体育関係団体など、幅広い層の協力のもと実施されており、世代間の交流を図り、地域の連帯意識を醸成するなど本事業の目的とする成果は十分あげられている。 | | | | | | |
| | 効率性 | | ● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | | 子ども達が、スポーツやレクリエーションを慣れ親しむ機会を確保できており、適切な事業運営がなされている。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | |
| | 町の活気を盛り立てていくため、また子ども世代の結束強化のためにも、今後も継続した事業実施に努められたい。 | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.20

平成28年度分

| | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-----------|---|-----------|-----------|---------------------|------------|----------|--|
| 事業名 | 図書館運営事務 | | | | | | 担当課 | 生涯学習課(図書館) | | |
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | | 節 | 3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進 | | | |
| | 基本施策 | | 1 生涯学習の推進 | | | | ② 社会教育施設の充実 | | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 5 | 目 | 6 | 事業 | 11 | 図書館運営事務費 | |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | | | |
| | 一般財源 | | 9,356 千円 | | 9,494 千円 | | 9,617 千円 | | | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 図書館利用者(町内及び広域) | | | | | | | | |
| | 目的 | 図書館は地域の情報活用拠点として、利用者に十分な資料の貸出や各種のサービス及び情報を提供することを目的としている。 | | | | | | | | |
| 5 事業の概要 | 一般利用者及び施設への資料貸出を行うほか、小さい頃から本に慣れ親しんでもらうため、乳幼児から小学校低学年を対象とした読み聞かせを開催。また、利用促進を図るため、夏休み1日図書館員(小学生)や施設見学を実施。さらには、図書館を通して、勤労観、職業観を養うために中高生の職場体験を実施している。 | | | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | | |
| | 資料の貸出(相互貸借・団体貸出を除く) | | | | 131,576 点 | 134,520 点 | 129,120 点 | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 情報通信技術の進展により、多種多様な情報についての要望が高いなか、図書館として迅速で詳細な資料提供が必要となる。 | | | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 図書資料の貸出数については、前年度に比べ5,400点(4.2%)の減となっている。一方、保育園や小中学校など団体等への貸出し冊数については、新たに2つの施設が加わり、町内の19施設に対し図書の出前サービスを取り組むなど、16,397冊、前年度に比べ2,532冊の増となっている。 | | | | | | | | |
| | 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | 図書・視聴覚資料購入費は、前年度より24千円(0.7%)の増となっている。利用者の要望等に対する対応については、幅広い選書による図書購入を行うとともに、相互貸借(県内図書館)を活用し、貸出対応を図っていきたい。 | | | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 | | ○ 縮小 | | ○ 休止 | | ○ 廃止 | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | | | |
| | 人気の高い書籍や高齢者向けの大活字本図書の蔵書拡充など、きめ細やかに対応している。今後も同様の事業実施に努められたい。 | | | | | | | | | |

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.21

平成28年度分

| 事業名 | 読書推進活動事業 | | | | | | 担当課 | 生涯学習課(図書館) |
|-------------------------|--|---|---------------------|--------|--------|-------------|--------|-------------|
| 1 総合計画の体系 | 章 | 4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり | | | 節 | 1 明日を担う人づくり | | |
| | 基本施策 | 1 就学前の児童の教育の充実 | | | | ① 家庭教育の充実 | | |
| 2 予算の体系 | 款 | 10 | 項 | 5 | 目 | 6 | 事業 | 12 読書推進活動事業 |
| 3 事業費 (決算額) | 財源 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | 国・県・支出金 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | その他財源 | | 0 千円 | | 0 千円 | | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 4,517 千円 | | 421 千円 | | 539 千円 | |
| 4 事業の目的 | 対象 | 乳児・児童・生徒 及びその保護者 | | | | | | |
| | 目的 | ブックスタート事業及び小中学校へ図書館司書の派遣を行うことにより、乳児をはじめ、児童・生徒が本に慣れ親しみやすい環境を整え読書推進を図ることを目的とする。 | | | | | | |
| 5 事業の概要 | ブックスタート事業は、生後5～8か月児を対象に健康増進課で実施する乳児健康診査及びごっこ教室後に、図書館職員とボランティアによる絵本の読み聞かせを行いながら1冊の絵本を配布する。また、町内の小中学校へ図書館司書を派遣し、ブックトークをはじめ、読み聞かせや学校図書館の環境整備などの支援を行う。 | | | | | | | |
| 6 事業の実施状況 (各種指標) | 項目 | | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | | |
| | ブックスタート事業(乳児健康診査・ごっこ教室) | | | 186 人 | 166 人 | 183 人 | | |
| | 小中学校への図書館司書派遣(司書派遣回数) | | | 91 回 | 85 回 | 78 回 | | |
| | | | | | | | | |
| 7 事業の評価 | 必要性 | ● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い | | | | | | |
| | 社会的要因や住民のニーズに即しているか | 少子化や核家族化が進み女性の社会への進出も増え、地域との繋がりが希薄となり、子育ても孤立しがちな状況となっている中で、様々な角度からの子育て支援が求められている。 | | | | | | |
| | 有効性 | ● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない | | | | | | |
| | 目的とする実績や成果はあげられたか | 絵本を通じて親子のふれあいの時間を持つことの大切さや、行政や地域が子育てを応援していることを、一人ひとりに伝えながら絵本を渡すことができています。 | | | | | | |
| | 効率性 | ○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない | | | | | | |
| | 経費や手段は適切であるか | ブックスタート事業で配布する絵本セットの購入費用として執行している。 | | | | | | |
| 8 評価委員意見 (今後の方針・課題等) | ○ 改善が必要 | | ○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止 | | | | | |
| | ● 現行どおり | | | | | | | |
| | 各学校へ配置が義務付けられている司書教諭とも連携を図り、より良い学校図書室運営に努められたい。 | | | | | | | |

教育委員会における今後の対応について

学識経験を有する評価委員から今後の方針等、貴重なご意見をいただき、平成 28 年度の教育に関する事務事業の点検及び評価を実施いたしました。

点検及び評価の手法につきましては、事業の必要性、有効性及び効率性の観点から定量的指標を示すことにより、公平かつ客観的な評価の実施に努めました。そのうえで平成 28 年度における主要 21 事業についての点検及び評価を実施し、事業の成果や課題の検証、さらに今後の事業方針等についてご意見をいただきました。

点検及び評価の結果、評価対象である 21 事業について概ね良好に執行されており、今後についても現行どおりの事業運営を継続すべきであるとの評価をいただきました。各事業にてご意見やご指摘がございました課題や改善事項につきましては、再度、個々の事業を点検し、より事業の効果を高めるべく、教育行政の一層の推進に努めてまいります。

次年度の点検及び評価につきましては、各事業に関するデータの分析を行い、次年度に活かすことについてご指摘をいただきました。また、よりきめ細やかな資料作りや数値に対する検証など、具体的な改善点もいただいております。今後も引き続き、点検及び評価の手法を改良し、実効性が高い評価の在り方を検討してまいります。

茨城町教育委員会は、評価委員からいただいた貴重なご意見をもとに、事業のさらなる改善を図り、町民に信頼され、支持される教育行政の充実に努めてまいります。

平成 29 年 8 月
茨城町教育委員会